

ようこそ、 私たちが自慢の職場へ

障がい者支援の新たな形



レストランで肉料理を運ぶ竹田裕介さん(左)と、この日は客としてサービスを受けるスタッフの宮崎妙子さん(右)



客室(ツインルーム)

県は、障がいのある人も、一人一人が自分らしく活躍できる社会を目指し、障がい者の就労を日本財団と共に支援しています。

昨秋と今春、障がい者が自信と誇りを持って働ける場として、宿泊機能付きレストランやギャラリー併設の工房がオープン。他にない特別感、あるいは居心地の良さを提供します。



日常離れ、 特別な時間過ごして

宿泊機能付きレストラン
エスプリ・ド・ラ・フォレ

①手前の料理は、伯耆のシイタケとイノシシ肉の網脂包み、②ティータイムで提供しているケーキセットの一例、③スズキのポワレ バジルとイカ墨のソース(②③写真提供=(特非)結)



大山寺参道に、障がい者が働く「エスプリ・ド・ラ・フォレ」が、昨年10月オープンしました。施設は木造平屋建て、20席のカフェレストランに、ツインルーム2部屋、シングルルーム1部屋が併設。レストランは宿泊客以外も利用できます。目玉は鳥取和牛、ジビエ、魚介など地元食材を使ったコース料理。料金は1泊2食付きで1万9千円から。こだわりのサービスを提供しています。

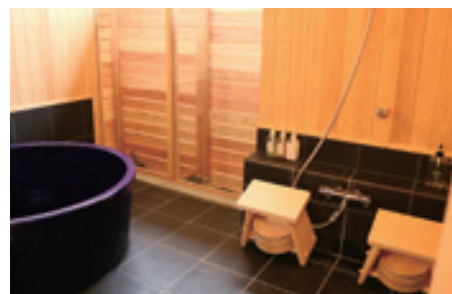
「エスプリ・ド・ラ・フォレ」は、フランス語で「森の精霊」の意味。特定非営利活動法人「結」代表理事の峰村慧さんは、ここで働く障がい者を、見えない所で人を助ける精霊に重ね合わせ「人の役に立つことが喜びとなるように」と名前に

込められた思いを語ります。

就労継続支援B型事業所(※)であるこの施設には現在、さまざまな障がいのある約10人が勤務。調理補助や接客、客室の掃除などに従事します。給仕の手順は、日々の練習で習得。「反復する中で、何をすべきか自分で考えられたら、一般就労にもつながる」と利用者の将来を見据える峰村さん。

竹田裕介さんは、ここでの仕事を全てこなす頼もしい存在。レストランでは「おいしく食べていただきたい」という気持ちでお客さまに接している」と話します。

こうしたスタッフのもてなしと大山の自然が、居心地の良さをつくっています。



共同の陶器風呂

※一般企業で働くことが困難な障がい者に就労の機会を提供する障害福祉サービス事業所。B型は雇用契約を結ばず、作業の対価は工賃と呼ばれる。



外観(写真提供=(特非)結)

■カフェレストラン

- ランチ／午前11時30分～午後1時30分
- ティー／午後1時30分～3時
- ディナー／午後9時まで
- ※ランチは1,800円から。1～3月には予約が必要。ディナーは3日前までにご予約を(通年)。

☎ エスプリ・ド・ラ・フォレ(大山町大山)

☎0859-57-8586 F 0859-57-8730

✉ eforet@npo-yui.com <https://www.esfo-daisen.jp>

■宿泊

- ツイン 1人 23,000円～
2人 40,000円～
- ダブル 1人 21,000円～
2人 38,000円～
- ※いずれも夕食・朝食付き。季節ごとにお得なプランもあります。



生み出すのは 作品と人の交流



障がい者アートの拠点
【アートスペースからふる】

一般社団法人「アートスペースからふる」は今年2月、障がい者アートの拠点を、鳥取市興南町から同市内の商店街の中へ移転。新たな拠点を商店街に置くことで、芸術活動や作品の魅力を多くの人に知ってもらうとともに、街中の活性化を目指します。

「からふる」は同法人理事長の妹尾恵依子さんが、障がい者も創作活動ができる場として、2005年に個人教室を開設したのが始まり。名前の由来を「人の個性を『色』に例え、集まれば『からふる』にな

る。平仮名にしたのはみんなが読めるから」と話します。

14年には、就労継続支援B型事業所として開業。現在、27人の利用者が生み出した絵画や立体作品を個人や企業に貸し出したり、作品をあしらったオリジナル商品を製作・販売したりしています。

事業所での仕事内容は、創作が中心。妹尾さんら支援スタッフは、

利用者には、地域住民との交流スペースを設け、誰でも参加できるアート教室も開講。アートの効用を感じてきた妹尾さんは「人の関わりに自信がない人や、外出機会の少ない高齢者が一步を踏み出すきっかけの一つになれば」と地域のつながり創出に期待を膨らませます。

利用者に画材の使い方や種類を伝えます。「私たちの意識の中で皆さんは『アーティスト』。描き方や創作活動そのものに対する指導はほとんどしない」と妹尾さん。

新拠点には、地域住民との交流

アートがもたらす 心の安定

一般社団法人
アートスペースからふる

理事長
せのお えいこ
妹尾 恵依子さん



私は、障がい者との創作活動により培ってきた長年の経験から、アートの力を用いたカウンセリングをしています。利用者さんにはまず、絵の具や鉛筆、筆、工作に使える材料などを提示。そして、表情や様子から自己表現するのに向いているものを共に探します。

内面を表現することが、なぜ必要なのか。人は、言葉や涙、声などを「出す」ことで「快」と感じるもの。ところが、障がいによっては思うように出せない人がいます。創作は、心の中の欲求や感情を作品の形として出してくれる。言葉ほどでなくても、アートは心の安定をもたらしてくれるものだと思います。



工場の壁を彩る部品に色を付ける
杉山将大さん



からふる2階ギャラリー

【アート教室「アンビバからふる」】

絵の具を使った表現遊びができます。学生、親子、一般を対象に、各クラス月2回程度開講。詳細はお問い合わせを。

問 (一社)アートスペースからふる(鳥取市元町)
営業時間/火~土曜日の午前9時~午後5時
☎ 0857-35-0191
✉ art.colourful.105@ncn-t.net
<https://www.facebook.com/art.colourful105>



アトスペース からふる

オリジナル商品



コットンバッグL
2,500円



Tシャツ 100cm 2,000円
S・M・L 3,000円
LL・XL 3,500円



コットンバッグS
1枚 1,500円



コースター(3枚入り)
300円



タンブラー
1個 800円



ストラップ
1個 200円

アトスペースからふる1階で購入できます。

活躍誇れる就労増やす

障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で、自分らしく生活できる社会を目指す鳥取県。日本財団と共に、工賃向上を実現しようとする事業所に対して、ノウハウの伝授や資金援助に取り組んできました。その結果、2017年度の県平均工賃月額額は1万8312円に。前年度からの伸び率6.65%は全国一です。

こうした経済的な支援はもとより、誇りを持って働ける環境があり、

することも大切。今回掲載した2事業所のように、障がいが地域を支える担い手として活躍する場を、今後も増やしていきます。

新たな挑戦、 展開が楽しみ

日本財団 鳥取事務所

所長
木田 悟史さん



「障がいの社会参画」に県と共に取り組んで3年。魅力ある店づくりや商品開発の担い手として力を発揮する事業所も出てきました。

昨年、大山町にオープンした「エスプリ・ド・ラ・フォレ」は、ロケーションも料理も素晴らしい。障がいの皆さんがここで提供する、質の高いサービスにとっても期待しています。一方、「アトスペースからふる」の活動は中心市街地活性化にまで拡大。付近のギャラリーを含め、「若桜街道」周辺がアートなエリアでにぎわうのでは、と今後の展開が楽しみです。

財団では、各事業所の悩みや課題を共有できる場をつくり、安定化に向けたフォローを続けます。

日本財団 鳥取事業所
☎0857-26-7897 F 0857-26-8120
<http://totnf.jp/>



暮らし日本一 鳥取県

☎ 県庁障がい福祉課(就労支援関係)
☎ 0857-26-7889
F 0857-26-8136
県庁とっとり元気戦略課(全般)
☎ 0857-26-7617
F 0857-26-8111